

教育システム情報学会

Japanese Society for Information and Systems in Education

JSiSE

発行日 2003年 3月31日
発行所 教育システム情報学会
発行者 岡本敏雄
〒661-8520 尼崎市南塚口町7-29-1
園田学園女子大学情報教育センター内
☎06-4961-6507 FAX06-4961-6508
<http://www.jsise.org/>
E-mail:secretariat@jsise.org

ニュース・レター No.122



第28回全国大会のご案内



デジタル・ルネッサンスの教育環境の展開 ～創造性を育む学習エコロジーの探究～

本年度の全国大会は、茨城大学教育学部（水戸キャンパス）にて開催されます。今回の大会では、「デジタル・ルネッサンスの教育環境の展開～創造性を育む学習エコロジーの探究～」というテーマで、新世紀のデジタル教育環境において、教師と学習者が自由に交流し、情報を共有し、新しい知識と知恵を創造する、優れた学習文化を生み出す環境をどのように構築していけば良いかを探ります。講演、パネル討論、各種発表セッションを企画しております。

多くのご発表、ご参加をお待ちしております。

- ◆開催日時 2003年8月30日(土)・31日(日)
- ◆会場 茨城大学水戸キャンパス
〒310-8512 茨城県水戸市文京2-1-1
- ◆主催 教育システム情報学会
- ◆共催 茨城大学教育学部
- ◆後援(依頼中) 文部科学省／経済産業省／茨城県教育委員会／水戸市教育委員会／茨城放送
／茨城新聞社
- ◆協賛(依頼中) ALIC(先進学習基盤協議会)／日本教育工学会／電子情報通信学会教育工学
研究専門委員会／(社)日本教育工学振興会／人工知能学会知的教育システム
研究会／(財)コンピュータ教育開発センター／(財)科学技術教育協会

次ページへつづく

◆大会日程

8月30日(土) [第1日]

9:00～	受付							企業 展示 会
10:00～12:00	企画セッション A	企画セッション B	企画セッション C	企画セッション D	企画セッション E	企画セッション F		
12:00～13:00	理事会							
13:30～14:00	総会							
14:00～15:00	基調講演「e-Learningにおける世界の研究動向と新しいe-Pedagogyの探求」 電気通信大学大学院 岡本敏雄(学会長)							
15:00～16:00	特別講演「学校教育における教育改革とその施策」(仮題)							
16:10～18:00	A1:一般講演	A2:一般講演	A3:一般講演	A4:一般講演	A5:一般講演	A6:一般講演	ポスター/デモ セッション	
18:30～20:30	懇親会							

8月31日(日) [第2日]

9:00～	受付							企業 展示 会
9:30～11:30	B1:一般講演	B2:一般講演	B3:一般講演	B4:一般講演	B5:一般講演	B6:一般講演	ポスター/デモ セッション	
11:30～13:00	昼食							
13:00～14:50	パネル討論会Ⅰ「デジタル・ネットワーク社会 における教育文化の革新～学習エコロジー(学 習環境)のデザイン～」			パネル討論会Ⅱ「情報教育元年～期待され る情報科教員～」				
15:00～17:00	C1:一般講演	C2:一般講演	C3:一般講演	C4:一般講演	C5:一般講演	C6:一般講演	ポスター/デモ セッション	

第28回全国大会前日

自主企画ワークショップ公募

第28回全国大会の前日午後3時以降に、会員の皆様方からの自由な企画によるワークショップ「自主企画ラウンド・テーブル」を設けたいと思います。是非、実施したいという企画がありましたら、下記事項を明記して全国大会事務局までメールにてお申込みください。

企画テーマ
内容(要約)
企画者氏名、所属、連絡先(E-mail)

メール送付先：茨城大学教育学部内全国大会事務局
jsise03@mcs.ipc.ibaraki.ac.jp

締め切り：5月30日(金)

研究発表申込書

発表申込みセッション 企画セッション(下記の注1参照)

一般講演(英語セッションを除く)

一般講演(英語セッション)

ポスターセッション(下記の注2参照)

デモセッション(下記の注2参照)

(注1) 研究委員会および大会実行委員会から発表を依頼されている発表者に限ります。

(注2) 他のセッションで発表されなくても単独に発表することができます。また、企画セッションや一般講演で発表される方が、同じテーマの内容をポスター/デモセッションで発表することもできます。その場合は、別々にお申し込みください。

発表タイトル

要旨(200字程度)

分野キーワード:

該当するものを、適切さの順に()内に番号をつけ3つまで選んでください。

() 生体・知覚情報 () 認知・メタ認知 () 協調学習 () 情報倫理 () 遠隔学習
 () バーチャルユニバーシティ () コラボレーション () 学習コンテンツ () プログラミング教育 () 知的学習支援
 () 情報教育 () 教育実践システム () 知的インタフェース () 教育方法・評価 () インターネット利用

該当するものがない場合は、その他に記入してください。

() Web利用 () 第二言語教育 () マルチメディア利用 () 教育実践・評価 () 企業内教育

() ネットワークシミュレーション () 教育システム評価 () その他()

発表者名

お名前 ふりがな 所属

--	--	--

* 連名でご発表の場合は、口頭発表者に○をつけてください。なお、発表者のうち1名は本学会会員でなければなりません。(当日までにご入会ください。)

連絡先

宛先
住所
Tel.
Fax.
e-mail

* 発表申込みは、上記の申込書の内容をご参照し、下記の全国大会ホームページからお申し込みください。
 なお、発表論文原稿は、全国大会事務局(茨城大学教育学部)へお送りください。

研究発表申込み ◆ 全国大会ホームページ <http://JSiSE2003.edu.ibaraki.ac.jp/> よりお申し込みください。

4月中旬より順次、全国大会情報や発表・参加申込み方法を掲載します。

発表申込〆切: 2003年6月13日(金)

発表論文提出先 〒310-8512 茨城県水戸市文京2-1-1

茨城大学教育学部

第28回全国大会実行委員会事務局

二宮研究室

e-mail jsise03@mcs.ipc.ibaraki.ac.jp

発表原稿提出〆切: 2003年7月11日(金)

JSiSE 2003 年度研究会開催案内

研究委員会 委員長 伊藤 紘二

副委員長 溝口理一郎

2003 年度研究会の開催について、研究委員会からご案内します。会員各位には、奮ってご発表、ご参加下さるよう、お願い申し上げます。なお、年度後半の開催案内には未定な部分もありますが、時期になりましたら、担当部会の方から、ニューズレターでご案内申し上げます。なお、学会のホームページでも、開催の詳細を、逐次お知らせ申し上げますので、そちらの方もご覧下さい。

- 第 1 回研究会 -

開催期日：2003 年 5 月 30 日(金)

テ ー マ：学習コンテンツデザイン

担 当：企業内教育研究部会

開催場所：青山学院大学総合研究所 11F 19 会議室

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25

発表申込締切：2003 年 3 月 31 日(月)

原 稿 締 切：2003 年 5 月 6 日(火)

問合先と発表申込先：松居辰則

電気通信大学大学院 情報システム学研究科

知識処理システム学講座

〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1

phone：0424-43-5621 (ダイヤルイン) fax：0424-89-6070

E-mail：matsui-t@ai.is.uec.ac.jp

- 第 2 回研究会 -

開催期日：2003 年 7 月 26 日(土)

テ ー マ：シミュレーション (Virtual Reality、ゲームを含む)

担 当：マルチメディア研究部会

開催場所：名城大学天白キャンパス タワー75

〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口 1-501

開催校担当：山崎初夫

発表申込締切：5 月 17 日(土)

原 稿 締 切：6 月 21 日(土)

問合先と発表申込先：野崎浩成

愛知教育大学教育学部

〒448-8542 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢 1

phone：0566-26-2609 (ダイヤルイン) fax：0566-26-2510

E-mail：nozaki@aecc.aichi-edu.ac.jp

次ページへつづく

- 第3回研究会 -

開催期日：2003年9月27日(土)

テ - マ：第二言語の学習支援

--母語以外の文字・音声言語の習得を支援する方法とシステム --

担 当：言語知識処理応用部会

開催場所：九州工業大学

発表申込締切：7月19日(土)

原稿締切：9月1日(月)

問合せと発表申込先：国近秀信

九州工業大学情報工学部

〒820-8502 福岡県飯塚市川津 680-4

phone：0948-29-7930 fax：0948-29-7601

E-mail：kunitika@minnie.ai.kyutech.ac.jp

- 第4回研究会 -

開催日時：2003年11月末

テ - マ：高等教育におけるIT利用

担 当：CAI研究部会

開催場所：福井大学

発表申込締切：9月20日(土)

原稿締切：11月5日(水)

問合せと発表申込先：黒瀬能幸

近畿大学工学部情報システム工学科

〒739-2116 東広島市高屋うめの辺 1

phone：0824-34-7000 fax：0824-34-7011

E-mail：kurose@hiro.kindai.ac.jp

- 第5回研究会 -

開催期日：2004年1月

テ - マ：グループコミュニケーションによる学習を支援するシステム

担 当：インターネット利用教育部会

開催場所：工学院大学新宿キャンパス(東京都)

問 合 先：米澤宣義

工学院大学八王子校舎5号館情報工学科

〒192-0015 八王子市中野町 2665-1

phone：0426-22-9291

E-mail：ct72058@ns.kogakuin.ac.jp

次ページへつづく

- 第 6 回研究会 -

開催期日：2004 年 3 月

テ - マ：情報教育における評価と教員養成

担 当：情報教育部会

開催場所：東京

問 合 先：松永公廣

摂南大学経営環境情報学科

〒572-0074 寝屋川市池田中町 17-8

phone：072-839-9266 fax：072-838-6631

E-mail：ey4k-mtng@asahi-net.or.jp

発表申込方法：

電子メールで発表申し込み締め切りまでに申し込み先宛，下記の項目をお送り下さい。

- (1) 発表タイトル
- (2) 者名 (登壇者に)
- (3) 所属
- (4) アブストラクト (200 字程度)
- (5) 連絡先住所，氏名，電話番号，FAX 番号，電子メールアドレス
- (6) その他，発表に関するご要望

2003 年度中国支部研究発表会 研究発表の募集

中国支部長 宮地 功

中国支部では 7 月 12 日に総会を開催し，その後に研究発表会を行います。つきましては，中国支部の方はもとより，他地区の方にも参加していただきたく，広く会員の方々に教育システム情報に関連した研究についての研究発表を募集します。多くの方々に是非ご参加をお願いします。

記

日 時：2003 年 7 月 12 日 (土) 13:00 ~ 17:00

会 場：広島工業大学 環境学部 21 号館 3 階会議室

発表申込締切：2003 年 6 月 13 日 (金)

発表申込方法：宮地宛(miyaji@mis.ous.ac.jp)に下記の項目を記載して送ってください。

(1)発表題名，(2)著者名(登壇者に)，(3)所属，(4)連絡先住所，氏名，電話番号，電子メール，(5)その他，発表に関する要望，(6)中国支部懇親会への参加・不参加

原稿提出締切：2003 年 6 月 27 日 (金)

送 付 先：〒700-0005 岡山市 理大町 1-1

岡山理科大学総合情報学部情報科学科 宮地 功

原 稿 形 式：A 4 用紙 2 ~ 6 頁。用紙の上下左右に 20mm ずつの余白を取る。その他は，教育システム情報学会研究会原稿作成に準ずる。

2003 年度第 1 回研究会のお知らせ

テーマ:『学習コンテンツデザイン』

担当：企業内教育研究部会
部会長 / 仲林 清

プログラム

教育システム情報学会では『学習コンテンツデザイン』をテーマに研究会を開催いたします。多くの方々にご参加いただけますようご案内申し上げます。

e-learningという用語がかなり定着してきました。技術、環境、教材、ビジネス等、e-learningを取り巻く様々な観点からの研究・開発・実践が行われています。このような背景の下、コンテンツの品質がe-learningの成否を決定付ける大きな要因であることも明らかになってきました。そこで、本研究会では15件の発表（下のプログラムをご覧ください）をもとに、学習コンテンツに焦点を当てた多角的な議論を行いたいと考えております。

具体的には、メディアとしての学習コンテンツの構成、Instructional Designなどを踏まえたコンテンツの設計、運用・管理、評価、シミュレーションや適合型コンテンツの実現手法、コンテンツの作成・流通・再利用のための技術標準化やツール・システムなどが中心的な話題となるかと思われます。企業のみならず高等教育、初等中等教育の組織からも多くの方々にご参加をいただき、活発にご議論をいただきたいと存じます。また、研究会終了後に懇親会を開催致しますので、是非ご参加いただき、よき情報交換、情報収集の場としていただきたく存じます。

なお、研究会に参加される方は、研究会への参加申込みを「2003年5月16日（金）」までに、幹事の松居（matsui-t@ai.is.uec.ac.jp）宛てに電子メールでお願いいたします。その際、懇親会への出欠に関するお知らせ下さい。

以上、宜しくお願い申し上げます。

記

日時：2003年 5月30日（金） 9:30～18:30（19:00から懇親会を行います）

会場：青山学院大学総合研究所 11F 19会議室

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25

<http://am12.a2en.aoyama.ac.jp/contents7.shtml>

参加費：無料（資料代は1部1,000円です）

懇親会費：5,000円程度（会場は渋谷駅周辺）

問合せ：電子メールで研究会幹事の松居（電気通信大学）宛、何なりとお問い合わせ下さい。
（問合せ先：matsui-t@ai.is.uec.ac.jp）

発表時間は1件あたり30分です。発表20分、質疑10分を標準的な時間配分とお考え下さい。

9:30～10:00

(1) 教育システム工学サーベイ2002-2003

君島浩(防衛庁)

10:00～10:30

(2) e-ラーニング技術の標準化動向

仲林清(NTT-X)

10:30 ~ 11:00

- (3) 教授方略に基づく学習課題の系列化手法とその体系化
松居辰則(電気通信大)

11:00 ~ 11:30

- (4) e-Learningにおける学習オブジェクトの系列化手法
関一也・松居辰則・岡本敏雄(電気通信大)

11:30 ~ 12:00

- (5) インストラクショナルデザインに重点をおいた集中講義「eラーニング基礎論」の内容と方法
鈴木克明(岩手県立大), 三石大(東北大), 波多野和彦(NIME), 小松秀園(NTTラーニングシステムズ)

昼休み(12:00 ~ 13:00)

13:00 ~ 13:15

- 【会長】e-learningシステム研究・開発の世界的動向とe-Pedagogy
岡本敏雄(教育システム情報学会 会長)

13:15 ~ 13:45

- (6) インストラクショナルデザイン技法UNIKIDSの適用とツールの活用
堀内淑子(日本ユニシス・ラーニング)

13:45 ~ 14:15

- (7) インストラクショナルデザインによる効果的教育開発方法の紹介
内田実(日立電子サービス)

14:15 ~ 14:45

- (8) EML - SCORM メタデータ変換ツールの試作
田村恭久・矢野亜希子(上智大)

14:45 ~ 15:15

- (9) 相互運用性を考慮したアセスメントデザイン
石打智美・永津昭人(NTTデータ)

15:15 ~ 15:45

- (10) オブジェクトモデルを用いた授業設計の提案
江見圭司(金沢工大), 矢島彰(大阪国際大), 田中規久雄(大阪大), 中條道雄(関西学院大)

休憩(15:45 ~ 16:00)

16:00 ~ 16:30

- (11) 学習コンテンツデザインのオントロジー工学的アプローチ
- 学習支援と学習コンテンツデザイン支援 -
林雄介・池田満(北陸先端科学技術大学院大), 溝口理一郎(大阪大)

16:30～17:00

(12) 放送技術を切り口とした双方向型Web教材

佐々木信之(群馬高専), 頼則絢太(コンピュータ教育研究所)

17:00～17:30

(13) e-ラーニングにおけるメンタリングメールの学習効果について

香山裕子・堀井俊洋・戸田博人(富士通ラーニングメディア),
波多野和彦(NIME)

17:30～18:00

(14) 動的視覚化法による教育方法論について

浪平博人(大妻女子大)

18:00～18:30

(15) e-Learningにおける品質保証の考え方

平田謙次(産業能率大)

【研究部会長挨拶】 仲林清(NTT-X)

e-ラーニング技術特別委員会 第3回シンポジウム開催のお知らせ

e-ラーニング技術特別委員会

委員長 小松 秀園

e-ラーニング技術特別委員会ではe-ラーニングの普及やe-ラーニングへの理解向上のために、e-ラーニング関連の話題のテーマに関し、その分野のエキスパート、e-ラーニング技術委員会のメンバーと参加者により、情報提供と議論をしてe-ラーニングのより深い理解に繋げていこうとするものです。第3回のシンポジウムのはじめのテーマではこれから多く登場してくると予測される社会人大学院、その大学院が企業の役に立つ高度専門職業能力養成機関として期待できるのか、アメリカで成功している社会人大学院と企業内教育連携のビジネスモデルを参考にしながら日本の社会人大学院発展のあり方を考えます。e-ラーニングの先進国では、トレーニングからPerformance Consultingへシフトしているといわれ、教育機能の業績への貢献を期待されています。日本ではどうすればよいのか、先進事例を実践していらっしゃる企業の方のプレゼンテーションからヒントを頂き、議論を重ねてまいります。

日時：2003年4月16日(水) 14:00～18:00

場所：(株)ビジネス・ブレイクスルー 六番町オフィス 地下1階 BBTセミナールーム
千代田区六番町1-7

http://www.bbt757.com/company/bbt_map.htm

次ページにつづく

■プログラム■

第1テーマ「企業内教育と社会人大学がe - ラーニングで連携できるか」

モデレーター	NTTラーニングシステムズ	小松 秀園
パネリスト	東京大学	山内 祐平
	産業能率大学	伊藤栄二郎
	早稲田大学	村岡 洋一
	ビジネスブレークスルー	伊藤 泰史

第2テーマ「e - ラーニングで業務に貢献する教育ができるか」

モデレーター	NTT - AT	二瓶 文博
パネリスト	NTT X	仲林 清
	シスコ	前田 信一
	マイクロソフト	佐藤 亙
	マイクロソフト	小林 義孝

シンポジウム終了後メンバー相互の親睦をはかる懇親会を予定しております。
今回は会場の人数制限が80名と通常よりやや少なめのため事前申し込みを頂き、会場整理を致します。

以下のフォームにご記入の上、 小松 秀園 komatu@hotmail.co.jp にご返信下さい。

.....

第3回e - ラーニング技術委員会シンポジウム申し込み

お名前；

学校 / 会社名：

参加されるイベントに をつけて下さい。

セミナー参加

懇親会参加

.....

新入会員の紹介

新入会員（敬称略）

JSiSE-A0201981	村井康二	神戸商船大学	正会員
JSiSE-A0201982	井上直巳	静岡大学	正会員
JSiSE-A0301983	金田忠裕	大阪府立工業高等専門学校	正会員
JSiSE-A0301984	岡田ロベルト	宮城大学	正会員
JSiSE-A0301985	太田 剛	静岡大学	正会員
JSiSE-A0301986	長谷川良行	学校法人聖隷学園	準会員
JSiSE-A0301987	飯田洋市	諏訪東京理科大学	正会員
JSiSE-A0301988	石川貴彦	北海道大学大学院工学研究科	準会員
JSiSE-A0301989	高橋文徳		準会員
JSiSE-A0301990	小谷卓也		準会員
JSiSE-A0301991	石川高行	北海道大学大学院工学研究科	準会員
JSiSE-A0301992	西岡 宏	（学）常葉学園浜松大学	正会員
JSiSE-A0301993	高野敦子	兵庫大学	正会員
JSiSE-A0301994	田中省作	九州大学	正会員
JSiSE-A0301995	遠本真希	園田学園女子大学	準会員
JSiSE-A0301996	坂倉英里	園田学園女子大学	準会員
JSiSE-A0301997	広瀬 舞	園田学園女子大学	準会員
JSiSE-A0301998	藤川宏美	園田学園女子大学	準会員
JSiSE-A0301999	松井佳織	園田学園女子大学	準会員
JSiSE-A0302000	元谷裕美子	園田学園女子大学	準会員
JSiSE-A0302001	安田知子	園田学園女子大学	準会員
JSiSE-A0302002	楊 薈蓉	園田学園女子大学	準会員
JSiSE-1A030054	小林 士	オリオンシステムズ（株）	維持会員

2002 年度新入会員（2003 年 1 月 21 日～2004 年 4 月 1 日）

新年度（2003 年度）の会費請求をしています。

会費の前納にご協力ください。

4 月から新年度（2003 年度）が始まりました。新年度会費を同封の請求書のとおり、ご請求をさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

学会の諸活動は、会員のみなさまからの会費で単年度予算で運営しておりますので、前納にご協力をお願いいたします。また、不明な点についてはまことにお手数ですが、事務局へメールでお問い合わせくだされば幸いです。

問い合わせ

教育システム情報学会事務局

〒661-8620 尼崎市南塚口町 7-29-1

E-mail : secretariat@jsise.org

園田学園女子大学情報教育センター内

同封の振込用紙をご利用ください。

国際会議の案内

国際会議は、教育システム情報学会の会員のみなさんからの紹介やインターネット上で流れている CFP 情報をもとに編集されています。会員のみなさんに紹介したい国際会議などがありましたら、下記までご連絡下さい。また、実際に国際会議に参加されたレポートなどを送っていただければ今後の国際会議の案内作成の際に大変参考になりますので、そちらのほうもお待ちしております。

本案内はWWW

(<http://www.fu.is.saga-u.ac.jp/~hayashijisise/conf.htm>) で見ることできます。

新着情報 3 件

ISICT 03: International Symposium on Information and Communication Technologies
開催日程: 2003 年 9 月 24 日-26 日
開催地: Trinity College Dublin, Ireland
論文応募締切: 2003 年 5 月 1 日
URL: <http://www.isict.org>
e-mail: info@isict.org

VRST 03: ACM Symposium on Virtual Reality Software and Technology
開催日程: 2003 年 10 月 01 日-03 日
主催: ACM SIGCHI & ACM SIGGRAPH
開催地: Osaka University Convention Center, Osaka, Japan
論文応募締切: 2003 年 5 月 6 日
URL: <http://www-human.ist.osaka-u.ac.jp/vrst2003/>
e-mail: vrst2003office@ist.osaka-u.ac.jp

ISMAR 03: The Second International Symposium on Mixed and Augmented Reality
開催日程: 2003 年 10 月 07 日-10 日
主催: IEEE Computer Society
開催地: The National Center of Sciences, Tokyo, Japan
論文応募締切: 2003 年 4 月 18 日
URL: <http://www.ismar03.org>
e-mail: info@ismar03.org

再掲載情報 4 件

ISAGA2003: Annual conference of Interenational Simulation and Gaming Association
開催日程: 2003 年 8 月 25 日-29 日
主催: 日本学術会議、日本シミュレーション&ゲーミング学会
開催地: かずさアカデミアパーク、千葉県木更津市
論文応募締切: 2003 年 4 月 1 日
URL: <http://www.isaga2003.org/>
e-mail: secretary@jasag.org

Hypertext 2003: 14th ACM Conference on Hypertext and Hypermedia
開催日程: 2003 年 8 月 26 日-30 日
開催地: Nottigham, UK
論文応募締切: 2003 年 2 月 15 日
URL: <http://www.ht03.org.uk/>
e-mail: lac@ecs.soton.ac.uk

ICCE 2003: International Conference on Computers in Education
開催日程: 2003 年 12 月 2-5 日
主催: AACE
開催地: Hong Kong
論文応募締切: 2003 年 4 月 16 日
URL: <http://www.icce03.org/>
e-mail: icce2002@icc.com.hk

E-Learn 2003: World Conference on E-Learning in Corporate, Government, Healthcare, & High Education
開催日程: 2003 年 11 月 7-11 日
主催: AACE
開催地: Phoenix, Arizona, USA
論文応募締切: 2003 年 4 月 30 日
URL: <http://www.aace.org/conf/default.htm>
e-mail: conf@aace.org

国際会議案内文責 松原 行宏 (広島市立大学)
E-mail: matsubar@its.hiroshima-cu.ac.jp

第 85 回 理事会・評議会 議事録

日時：2003 年 1 月 25 日（土） 17 時 30 分～19 時 30 分

場所：ホテルニュー神田

出席者：理事

岡本敏雄，磯本征雄（委任状），小松秀園，赤堀侃司（委任状），伊藤紘二，大槻説乎（委任状），坂元 昂，清水康敬，菅井勝雄，竹内 章，対馬勝英，永岡慶三（委任状），樋川和伸（委任状），矢野米雄，渡辺成良，山本 恒，

欠席者：永野和男，上月景正，大下眞次郎，溝口理一郎

出席者：監事

小荒井順

欠席者：監事

今栄国晴

出席者：評議員

浜井二三男，福原美三，松永公廣，村本 紘，米澤宣義

欠席者：評議員

家本 修，石桁正士，奥田富蔵，黒瀬能幸，向後千春，高橋参吉，竹本宜弘，西野和典，平嶋 宗，細井秀樹，前迫孝憲，三輪和久，横山節雄，吉田 覚，山崎敏範

：事務局

山本 恒

：その他

田村恭久（上智大学），伊東幸宏（静岡大学）

岩崎公弥子（電気通信大学（記録））

1) 新入会員の承認

事務局より新入会員の説明があり、原案通り承認された。（会員数 1157 名）

2) 今年度の全国大会会計報告

伊東委員長（静岡大学）より、今年度の全国大会の会計報告がなされ承認された。

3) 来年度の全国大会に関する件（菅井理事、樋川理事）

菅井大会企画委員長より、来年度の全国大会に関する説明があった。

次年度大会の主題は「デジタル・ルネッサンスの教育環境の展開」となった。

この主題の趣旨は次のとおりである。

- ・文化的に高いものを追求し、ルネッサンス的文化を取り入れた教育環境を創造していく
- ・地球規模の学習の問題も考えていく

大会の開催日程は 8 月 30 日、31 日に決定した。

4) 選挙管理委員の選出

赤堀理事、樋川理事、菅井理事に選挙管理委員をお願いすることになった。

5) 日独ワークショップ（渡辺理事）

渡辺委員長と田村先生（上智大学）より、ワークショップとドイツ側の提案についての説明があった。

日程：9 月 4 日（月）、5 日（火） 場所：日独センター

チェアを岡本会長、副会長を小松副会長をお願いすることになった。

URL は、<http://www.jsise.org/jwcl/>

6) 学会会議報告（渡辺理事）

渡辺委員長より、学会会議報告の報告があった。

次ページへつづく

7) 英文誌の進捗状況（磯本理事，竹内理事）

現在暫定的に決めている英文誌の編集委員をどうすべきかの検討が必要との指摘があった。

英文誌は国際化において非常に重要であり、vol2 からは人、組織共に検討しなければならないとの指摘があった。また、vol1, vol2 は年に一度しか出せないが、将来的には年に2回出版したいとのことで、このように「No」というナンバリングをしているとの説明があった。

8) 編集委員会からの報告（磯本理事，竹内理事）

竹内副委員長から、編集委員会の報告説明があった。

4月に発行の学会誌は、e-Learning 特集 33件の応募、1回目の査読終了。

経験の広場への投稿は論文ではないという指摘を受け、会員に有用な情報であることが採択された場合にのみ掲載することが確認された。

論文投稿者と査読者のミスマッチを防ぐため、情報システム、教育、認知系の3つの分野で査読者をわけ、投稿者にはどのような視点（分野）で書かれているのかを聞き、分野を特定後、キーワードをマッチさせて、査読委員と投稿者を決定することを検討中との報告があった。

カテゴリーについて

論文投稿の立場が不明確で、査読者の観点が違うために、別の観点で見ると良い論文が無視されて落とされているとの問題があったため、以下のように改定するとの報告があり、承認された。

1) 実践論文と原著論文を性格の違うものとして分ける。

・ 原著論文：新規性、信頼性が高い

・ 実践論文：有用性、信頼性が高い

2) 原著速報を技術速報にする。

3) 論文と速報を分ける。

速報：ページ数は4ページか6ページにする。

資料論文：実践論文のカテゴリーに含める

サーベイ論文：原著論文のカテゴリーに含める

コミュニティプラザ：現行通り

論文の良いところを取り上げられるような制度を検討していることが報告された。

9) 国際会議 CATE（岡本会長）

岡本学会長から、国際会議 CATE についてウラジビル氏より後援依頼を受け、学会長の判断で承諾したとの報告があった。また、論文を投稿して欲しいとの依頼があったことが報告された。

10) 各員会からの審議事項及び報告事項

1) 組織運営委員会（矢野理事、大下理事）

2) 広報・WWW 委員会（対馬理事、上月理事）

Web の情報公開するための組織作りをしなければならないとの指摘があった。

3) 情報教育委員会（磯本理事）

4) e-learning 技術委員会（小松理事）

小松委員長から、e-Learning のシンポジウムの報告があった。

年に2回開催、最近話題になるテーマについて議論、実践をしている企業の人からの講演

5) 研究会委員会（伊藤理事）

伊藤委員長から、研究会委員会の説明があった。

会長より、年間計画、広報、予算を時代に合ったものにし、魅力的な運営を行うよう依頼があった。

11) その他

・ 文部科学省メディア教育開発について

・ 高校教科「情報」の新設に関連して

岡本学会長より、「高等学校普通科」としてセンター試験に関する説明があった。

本学会のみで議論するより、教育工学などの関連協会も含めて議論することが必要であるとの指摘があった。

・ 名簿作成に関して

発行時期を変更する必要があるのではないかと指摘があった。

・ 次回理事会について

次回は4月5日（土）になった。

第 93 回言語・知識処理応用研究部会の報告

研究委員会 委員長 伊藤紘二

開催日 2002年12月21日(土)

場 所 上智大学(東京都千代田区)

「電子テキスト&ノートによる学習システム」

奥田富蔵(東海大学)

学習において本質的な役割を担う Note-taking を支援する、電子テキストとノートによる学習システムを対象とし、ノート作成のインタフェースを議論した。テキストはその内容を表示し、検索し、また内容を整理する機能が必要であるが、一方でノートは学習者が書き込み、またその内容や書き込む動作によって内容を認識し、さらにテキスト間と相互に関連付ける機能が望ましい。このため、インタフェースの要件として「操作が自然かつ容易である」「気付き、記銘の効果がある」「事実上の標準とあまり違わない」といった要素を抽出した。

「参照情報を保持する日本語読解支援システム」

石川賢太郎、大崎 大、伊丹誠、伊藤紘二(東京理科大学)

読解を通じて対象言語の表現法について学習することを支援するシステムを提案した。学習者が学習するコロケーションと、それに対する学習者の解釈を記録する際、システムがこれらの対応を記録する。学習者が再度同様のコロケーションを学習する際、当該コロケーションの形態素、構文的特徴、登録された位置情報をもとに、過去に学習した文脈を示し、定着を支援する。

「知的英語学習支援システムの質問応答機能における意味的正誤判定」

本田 実、國近 秀信、平嶋 宗、竹内 章(九州工業大学)

学習者の理解状態を考慮して物語の内容に関する質問を行なう質問応答機能における正誤判定について述べた。学習者の解答文を解釈する際、物語の意味情報を用いることにより、語句の多義性、装飾関係、用法による曖昧性を解消し、正しい解析結果を選定する。また、解答文と物語の意味情報の比較により、正誤判定を行い、誤りの種類や箇所、語句などを同定する。

次ページへつづく



「学習者の教材解釈に着目した学習ドメインの分析と再利用」

三ツ井 淳、大塚哲也、田村恭久（上智大学）

複数の学習分野（ドメイン）を「問題解決・問題解釈」というプロセスに着目して比較分析し、それらのドメインで再利用可能なプロセス部品の抽出を試みた。数学や物理などのドメインでは、与えられた問題を部分問題に細分化し、それを学習分野の個別知識に当てはめ（抽象化）さらにこれを具体的な解法に結び付ける（具体化）。これらのプロセス、誤適用の可能性、それを修正するナビゲーションなどを再利用して学習支援システムを構築することにより、効率的なシステム開発や学習者ナビゲーションが可能となる。

「学習支援エージェントを用いた学習者状態に適応する誘導方法」

清水友明、田村恭久（上智大学）

複数の学習支援エージェントに「教師」と「生徒」の役割を与え、実際の学習者との3者間のコミュニケーションによって学習支援を行なうシステムを提案した。後者のエージェントは擬似学習者エージェントとして振舞う。教師役エージェントと擬似学習者エージェントの対話観察や、擬似学習者エージェントから学習者への問いかけにより、から、学習者は単なるインストラクションでは得られない知識の獲得と定着を得られる。学習者と擬似学習者エージェントの知識レベルを想定し、複数の会話パターンを用意した。

「協調学習記述のためのメタモデルの検討」

香山瑞恵（専修大学）、井上智雄（国立情報学研究所）、岩崎公弥子（電気通信大学）、田村恭久（上智大学）、宮寺庸造（東京学芸大学）、岡本敏雄（電気通信大学）

協調学習活動やその環境を記述するメタデータを開発しており、その状況を報告した。学習活動を表現するメタデータは、AICCやIEEE、IMS、ARIADNEなどが提案し、ISO/IEC JTC1 SC36で標準化への議論が進んでいる。協調学習に関してはSC36 WG2で検討されているが、本研究では協調学習を教員・教授法・授業運営などの立場から議論し、要件定義を行なう。現在、「教師（グループ）」、「学習者（グループ）」、「生産物」、「学習環境」の4グループに分けたクラス定義を行なっている。実際の協調学習活動によるモデルの検証などを今後実施する。

「学習支援システムに自然言語による対話を組み込む方法について：文献紹介」

伊藤紘二（東京理科大学）

学習支援システムに自然言語による対話を組み込む方法について調査を行なった。まず、モデルトレーニングと自己説明支援に基づく学習支援システムでは、問題解決のパスを予め設定し、学習者の部分解答や誤答に応じて説明を要求する。学習者の思考パスへの追従にはBayesian Network等が使われる。また、概念学習支援に自然言語対話によるガイダンスを組み込む試みでは、学習者が問題解決に用いる概念自体の把握の誤りを自然言語による対話によって行なう。自然言語による対話を行なうことで、学習者自身が自分の考えを言葉で構成し、また学習動機を高めることにもつながる。

第 93 回研究報告

【言語・知識処理応用研究部会】

研究報告書購入ご希望の方は、日本学会事務センター事業部・海外部（学協会刊行物頒布業務）まで、TEL（03-5814-5811）、FAX（03-5814-5822）Eメール（sub@bcasj.or.jp）でお申し込みください。

1部 1,300円（送料共）です。残部切れの際はご容赦ください。

なお、JSiSE 会員で「研究報告」の年間購読（購読料は送料込みで年間 4,000 円）をご希望の方は JSiSE 事務局 TEL（06-4961-6507）、Eメール（secretariat@jsise.org）までご連絡ください（年間 6 回）。この際、ぜひ購読されますようおすすめいたします（教育システム情報学会研究会委員会担当 / 伊藤紘二）。

.....

・開催日：2002 年 12 月 21 日

・場 所：上智大学

1. 電子テキスト&ノートによる学習システム（2） その入力インタフェースについて

奥田富蔵，及川義道（東海大学），大塚一徳
（長崎県立大学），井上 靖（東海大学）

われわれは、Note-taking が学習において本質的な役割を担うと考え、電子テキストとノートによる学習システムを模索している。それは自学自習を前提とし、学習の受容、理解の過程に焦点をおいたものである。これまで、サブシステムであるマウスを主体とした数式入力インタフェース、先行オーガナイザーの役割を担い学習概念の構造を表わす概念図の作成、電子ノートなどについて検討してきた。本報告では、このシステムの重要な機能であるノート作成のインタフェースについて論ずる。

2. 参照情報を保持する日本語読解支援システム

石川賢太郎，大崎 大，伊丹 誠，
伊藤紘二（東京理科大学）

我々の提案する読解支援システムは、従来の辞書引きを自動化する読解支援システムと違って「読解を通じて対象言語の表現法について、学習

することを支援する」システムである。学習者は、今まで学習したコロケーションとそれに対する学習者なりの解釈をノートに記録するのであるが、その際にシステムでは、そのノートとそのコロケーションのテキストの位置との対応を記録する。以降、学習者が同様のコロケーションと思われるものを学習しようとした際に、そのコロケーションの形態素、構文的特徴と登録された位置情報を元に、過去に学習したコロケーションを含む文脈を提示することができる。この機構を利用することで、現在学習中のものと過去に学習した同コロケーションが使われる場面同士を比較、検討する機会を得、文脈を考慮した表現法の使用の知識の再構築を行うことが可能であろうと考える。提案システムでは、学習者が過去のそのコロケーションに対する解釈が誤っていることに気付けば、再登録を行うことが可能であり、結果として、その学習者固有の具体的使用例付の電子ノートを作成していくことができる。

3. 知的英語学習支援システムの質問応答機能における意味的正誤判定

本田 実，國近秀信，平嶋 宗，竹内 章
（九州工業大学）

本論文では、学習者の理解状態を考慮して物語の内容に関する質問をおこなう質問応答機能における正誤判定について述べる。一般に、自然言語を解析した際には解釈の曖昧性が生じる。本研究で

は,学習者の解答文を解析する際に,物語の意味情報を用いることにより,語句の多義性,修飾関係,用法による曖昧性を解消し,正しい解析結果を選定する.また,解答文と物語の意味情報の比較により正誤判定をおこない,誤りの種類や箇所,語句などを同定する.

4. 学習者の教材解釈に着目した学習ドメインの分析と再利

三ツ井淳,大塚哲也,田村恭久(上智大学)

Understanding and interpretation of a problem is one of important skills in problem solving activities for learners. In order to interpret a problem, a learner should divide the whole problem into many pieces of sub-problems, make these sub-problems relations to the knowledge that were learnt, and construct a problem-solving path. Although the individual knowledge is dependent on the learning domain, structure or some parts of the problem-solving activity should have commonality independent of the learning domains. Objective of this study is to investigate this commonality of problem-solving activity in different domains, e.g. mathematics, physics, computer programming. In order to identify the commonality, Learning domains are analyzed on the focus of interpreting the problem, which is based on the key word of the problem sentence. Then the interpretation charts are developed to describe answer process. In this paper, the authors show the result of analysis and a prototype system for computer programming domain.

5. 学習支援エージェントを用いた学習者状態に適応する誘導方法

清水友明,田村芳明,田村恭久(上智大学)

In this paper a collaborative learning interface agent is introduced, not only for

tutoring but also collaborative learning support through conversation among the proposing pseudo-learner agent, a teacher agent, and the learner. In order to accomplish more precise navigation, a method is also proposed which inquires learners their confidence to the answer of the question. With use of this parameter, the system is able to identify learners' achievement and emotional status more precisely, which is needed to support collaborative learning with use of pseudo-learner agent.

6. 協調学習記述のためのメタモデルの検討

香山瑞恵(専修大学),井上智雄(国立情報学研究所),岩崎公弥子(電気通信大学),田村恭久(上智大学),宮寺庸造(東京学芸大学),岡本敏雄(電気通信大学)

本研究では,協調学習の設計・評価を支援することを意図した,Collaborative Learning Entity オブジェクトのメタデータ化と,その参照モデルによる知識抽出と知識共有を,実現することを目的とする.協調学習のメタモデルを設計し,そのモデルを記述するために必要とされるメタデータを整理する.そして,メタデータによって特徴付けられた協調学習事例から構成される事例ベースの構築・運用することを通じて,協調学習に関わる教師の協調学習環境の設計や指導に関する教育的知識の抽出を試みる.本稿では,協調学習に関わるメタデータの整理を意図したメタモデル開発に関して述べる.

7. 「学習支援システムに自然言語による対話を組み込む方法について:文献紹介」

伊藤紘二(東京理科大学)

学習支援システムに自然言語による対話を組み込む方法に関する研究について,4つほどの文献の調査結果を報告し,その考察に基づいて,今後の展望を述べる.